

# 石川町文化協会だより

第69号

石川町文化協会  
石川町関根165  
石川町公民館内  
☎0247-26-2566  
発行責任者：鈴木 茂

## 令和5年度総会開催

## 歴史と文化の誇れる町へ

7月の石川町の文化財巡りでは、知らなかった町のお宝に、目を見張るものがたくさんあることに気づかされました。秋には、研修旅行なども計画しています。皆様、どうぞご参加ください。

各団体の活動も動き出してい

石川町文化協会に對しまして、町民の皆さまには日頃よりご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。コロナも少し落ち着き国の対応も変わり、今年度は3年ぶりに総会を開くことができました。協会の方針も、確かめ合うことができ、また一步、本協会を高めていくことができるようになったことを喜び合いたいと思います。今年度の事業もスタートしています。6月に開催致しました「大和田新氏 文化講演会」も盛況でした。生きることの意味、命の大切さを考えさせられた講演会でした。

### 手を繋ぎ合い、紡いでいく

### 石川町の文化を

鈴木 茂

石川町文化協会に對しまして、集まって、笑って、話して、そして文化を高めていける活動に参加できることは、自分を磨き、高めていくことに直結します。コロナ禍で活動を制限されていた時のことを思い返し、今を大切にしていきたいでしょう。そして、手を繋ぎ合って石川町の文化を紡ぎ、育てていきましょう。

今後とも、町民の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

石川町文化協会総会



## 読んでみませんか、この一冊

46



作 小川 糸  
(白泉社)

推薦者 西牧夫早子

小川糸の温かくほっこりする小説が好きで、何冊か読む中で巡り合った「ミト・トン」

情景が目につかぶ美しい自然の中で、伝統を大切にしながらミトンと共に生きた女性マリカ。ラトビアを取材して書かれた、まるで大人のおとぎ話のような世界です。ただ、背景には自国が侵略される悲しみが流れています。

活発でミトン編みなど苦手なマリカが、大好きな彼のためにミトンを必死に編み上げます。侵略国から歌と踊りまでも禁止される中で、寒い国の必需品ミトンは、唯一許された物なので

す。ふたりは夫婦となりお互いを信頼し、国民性としての「つらい時ほど楽しんで笑う」ことを大切に、丁寧に生きていきます。しかし、夫は敵国に連れられていきます。その時、懸命に編んで持たせたミトン。ミトンだけでつながっていたマリカのもとに何年か後、汚れた片方だけのミトンが敵国の人から送られてきます。マリカは、憎むべき敵国にもこんな優しい人がいたと気づきます。読みながら、今のロシアとウクライナの争いの中に置かれている人々の状況と重ねてしまいました。

悲しみの中でも、マリカは、ミトンを編むことは手を温めることだけでなく、自分の心を届けることだと心を込めて編み続けます。

マリカは、置かれた状況を嘆かず、ミトンと共に強く生きぬきました。「何も失っていない。変化しただけ」と前を向く姿は、すがすがしく、胸をうたれます。是非一度手に取ってもらいたい一冊です。

(石川町立図書館にあります。)

「ミト・トン」

## 令和5年度 事業方針

会員の視野拡大をめざしながら、民間諸団体、行政機関との連絡調整を密にし、地域の文化向上のための活動を推進する。

### 石川町文化協会役員名

(令和5年・令和6年度)

役職	氏名	所属団体
顧問	務川 裕子	じゅんじゅんの会
顧問	瀬谷 京子	箏友会
会長	鈴木 茂	しげる会
副会長	郷 徹	あぶくま旬会
会計	小池 幸子	雲亭句会
監事	竹貫 定子	読み聞かせの会
監事	添田 京子	絵画クラブ
理事	有松 淳	吹奏楽団
	竹内 敬子	箏友会
	中村 幸吉	盆栽協会
	小林 ヒサ	吟瑠会
	鈴木ミエ子	舞芳の会
	斎藤 早苗	藤芳会
	酒井 藤子	すみれ会
	渡邊喜恵子	箏友会
	三輪恵美子	女声コーラス
	神戸 初枝	女声コーラス
	首藤 茂	棋友会
	大竹喜代子	華道愛好会
	柄沢 節子	古文書を読む会
事務局長	熊井トシエ	じゅんじゅんの会
事務局員	水野 昭子	華道愛好会
事務局員	添田ヒロ子	読み聞かせの会

## お知らせ

### \*第62回福島県芸術祭

#### 開幕式典・開幕行事開催

日時…令和5年9月3日(日)午前11時  
会場…會津風雅堂大ホール **入場無料**  
テーマ…つなぐ・つむぐ・つたえる **私たちの文化芸術**

主催…福島県芸術文化団体連合会

☆今年度は会津から開幕式典をスタートし、県の各団体の芸術祭が始まります。参加ご希望の方は、石川町文化協会事務局までご連絡ください。

### \*10月21日(土)

石川町芸能祭・音楽祭

### \*11月3日(金) 4日(土) 5日(日)

石川町総合文化祭

### \*11月11日(土)

石川町文化協会研修旅行(会津方面)

### 編集後記

ようやく通常のライフスタイルが戻り、文化事業の活動も動き始めました。それぞれの会を楽しみながら、自分自身を高め、今後の活動を進めて行きますよう。

k.o.

# 県知事賞受賞



「予感」

福島県写真連盟 県南支部 我妻 英昭 (石川町下泉)

コロナ禍以前にも、4回ほど訪れていた喜多方三ノ倉のひまわり畑が、令和4年に3年ぶりに開催され撮影に行きました。

黒い雲が覆い始め、天候が崩れてきたので、急ぎ足で車に戻る時に撮影しました。登り坂でしたので、ひまわり畑を下からあおり、陽光が漏れる雲を大きく取り入れシャッターを。

今回、審査を頂いた写真家の野町和嘉先生は世界中を撮影されており、ウクライナのひまわり畑を思い出し、未だに厳しいウクライナの情勢に思いを馳せていたことから、幸運にも賞に選んで頂き光栄に思っています。(我妻)

# 石川町文化協会文化講演会

講師 フリーアナウンサー

## 演題 伝えることの大切さ 伝わることの素晴らしさ

## 大和田 新 氏

今年度の文化事業は、「大和田新氏文化講演会」とし、6月24日石川町共同福祉ホールで開催した。

大和田新氏は、38年間務めたラジオ福島を平成27年3月に退社し、現在はフリーアナウンサーとしての活動や講演会を積極的に行っている。

ラジオ番組でおなじみの大和田氏は、話術が巧みでユーモアがあり、瞬く間に誰もが話に引き込まれていった。震災が繋いでくれた『縁と恩』に感謝しながら現地取材で目にしたこと、耳にしたこと、感じたこと等自分の言葉で伝えることを大切にし、伝わることの素晴らしさを発信し続



生きることの意味、命の大切さを伝える大和田新氏



笑って、泣かされ、共感し...

けていると言う。今回の講演では人生のリーダーとして前向きに頑張る二人にスポットを当て、語った。一人目は、長寿食研究家永山久夫さん91歳。二人目は、運動着メーカークラロン会長の田中須美子さん98歳。人間味あふれる生き方が感動を呼んだ。アンケートには「生きていく意味を考えさせられた、感動で涙を誘った、わかりやすい話だった」など多数寄せられた。笑いと感動に包まれた講演会であった。

### 感動した

### 超高齢者二人の生き方



蛭田 重経

人生百年時代と言われる今日、現役で活躍する県内ゆかりの超高齢者の二人にスポットを当て、その行き方を熱く伝えられたのがフリーアナウンサーの大和田新氏です。

まず、原発事故で避難地と化した檜葉町出身の永山久夫氏。高齢者の食事研究家として第一人者です。健康長寿には、肉は勿論、栄養豊富な日本食が大事なことを、九十一歳の今も自作の歌と共に国内を巡り、年に百回も講演して多くの方々に伝えていきます。(お茶飲んで ご飯 豆 胡麻に 鯛に 人参 昆布 これで長生き ワツハツハツハツのハー) 長生きの秘訣は、感動すること 興味を持ち恋心を忘れず、笑うことも大事です!

次に、福島市で体操着を製造する会社社長田中須美子氏。二十年前に他界された前社長の夫の意を継ぎ、九十八歳の今も社員を大事にする経営方針は、女性、高齢者、障害を持つ人を数多く雇用すること、人の役に立ち感謝され、必要とされる社員の育成です。社長の願いが社員の心に響き、日々生き生きと働く姿は、会社を活性化させ、来社する多くの方々を感動させているそうです。職場見学で来社した高校生の考え方や生き方を大きく変えたという社長講話。その一人が東日本大震災の避難者で、その後の家庭生活を希望に満ちたものに変えさせ、社長と生徒の心が伝え伝わった逸話は圧巻です。石川町文化協会の講演会は、素晴らしい講師により、健康長寿で社会に貢献する二人の生き方を伝えて頂き、深く心に刻まれ感動溢れるものでした。心より感謝申し上げます。

## 令和5年度石川町文化財めぐり

### 文化財から解き明かされる石川の歴史

7月29日(土) 猛暑日の中「石川町文化財めぐり」が実施された。参加者23名。解説は角田学氏(生涯学習課 石川町歴史民俗資料館長)

#### 文化財めぐりコース

##### ①大貫宮八幡宮(新田) アジア・

太平洋戦争末期、学法石川義塾中の生徒さんが、ウラン鉱採掘のために、学徒動員が行われた。

##### ②大石地藏尊(立ヶ岡) 別名「首切り地藏尊」とも言われ、中世期以前に処刑された人々を埋葬し、供養として立てられたもの。巨大な花崗岩で造られ、高さは2.7mを超える。長年首が取れていたが昭和32年に補修されている。

おもわず皆も合掌



おもわず皆も合掌

##### ③鈴木重謙屋敷(荒町) は自由民権史跡。鈴木家主屋(江戸時代後期1800年代)自由民権運動で活躍した鈴木荘右衛門・重謙親子の住まいであり、屋敷は石川区会所、

のち石川郡役所として使用された。

のち石川郡役所として使用された。

##### ④谷地木造千手観音菩薩立像 (谷地) 「県指定文化財」白花山正法寺観音堂の本尊。鎌倉時代後半に造立された仏像。前高104.3cmの11面42臂像。美術的にも優れた造形を示している。平成28年に修復が行われている。



通常は年に一度、春に拝観できること

##### ⑤珍しい平地での分水界(谷地)

山から湧き出た清水が、竹の花地区で2つに別れ、一方は鮫川から、もう一方は今出川・阿武隈川を経てどちらも太平洋に流れていく。暑さの中、角田氏の丁寧な解説にうなずきながら聞き入っていた皆さんでした。